（３）指導に生かす評価の工夫

★基本的な考え方★

○「絶対評価」（学習指導要領に照らしてその実現状況を見る評価）と「個人内評価」（児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価）を基本として、以下の３つの視点をもとに行う。

ア　自己評価・・・自己評価は児童にとって自己理解のための活動であり、自己評価能力を高めることにより「めあてー実行ー評価ーめあて」のサイクルを確かなものにし、課題解決力を高めることにつなげる。

イ　相互評価・・・児童同士で相互に評価させる相互評価を通して、自己評価をより確かなものとする。（客観性）

ウ　教師からの評価・・教師からの評価は、毎時間のねらいを明確にした評価基準をもとに正確に評価する。また、学習中の児童にその場で言葉かけをし、教師の評価を児童に伝えることも重要である。

～第６学年「仲間とつながり、技をつなげるマット運動」（Ｂ　器械運動　ア　マット運動）～

ア　自己評価

自己評価を行わせる手立てとして学習カードを使用した。自己評価の観点を明確にし、指導と評価の一体化を図ることで、自己評価能力を高め、課題解決につながるようにした。

＜明確な自己評価の観点の設定＞

★めあて			→	技能
★楽しさ	★発見	★教え合い	→	思考・判断
★力一杯	★協力	★ルール	→	関心・意欲・態度

自己評価による課題解決の流れ

		自分のめあて（がんばりたいこと・気をつけたいこと）	めあて	楽しく	発見	教え合い	力一杯	協力	ルール	＜ふりかえり＞ ・わかったこと ・できたこと	・自分の課題 ・こまっていること
			評価（ ◎ ○ △ ）								
1	／	スイッチオンタイムのやり方を確認し、自分が今できる技をたしかめる。	○	○	△	○	○	○	○	ブリッチからおきあがるときはすこし体をかるく。	そくてんをやるときのこつを見つける
2	6/26	側方倒立回転で足をのばしてあしをあげる。	△	◎	○	○	◎	○	○	倒立前転をするときはあごを出して目線はお腹の間の前。	大きな前転をするときに前手をつける
3	6/27	大きな前転でできるだけ前手をつける。	○	○	○	○	○	○	○	しんしつ後転をするとき前につける。	倒立前転 手パたして頭・せなかおしりのじゅんばんにつく。
4	／	倒立前転で後頭部せなかおしりのじゅんばんでまわる。	○	○	○	○	○	○	○	倒立前転をするとき、足をのばしたら大きく美しくみえる。	しんしつ後転をするとき、こわがらずに足をのばしてする。
5	7/4	側方倒立回転で足をのばす。	○	○	○	○	○	○	○	前、自分のめあてで側方倒立回転の時はムだらけでできたらムだらけがなくなる。	側方くこうてんでちょっとしてちょっとしてする前に足をのばしてする。
6	7/6	組み合わせわざでなるべく足がそのばす。	○	○	○	◎	○	○	○	ちみちゃくがくみあわせわざでいっしょうけんめいがんばっていた。	くみあわせわざをもっとスムーズにすすめる。
7	7/13	組み合わせ技でスムーズにすすめる。	○	○	○	○	○	○	○	くみあわせ技をスムーズにするには足をクロスしたりするとよい。	側方倒立回転をするときに足がピンとのびていない。

自分のめあて欄　　自己評価欄　　本時のふり返り欄

【学習カード（個人）】

授業後のふり返りには、「わかったこと・できたこと」に加えて「自分の課題・困っていること」を記入させ、次時のめあてへとつながるようにすることで、児童の課題解決力を高めていく。

学習カードの活用ポイント

☆１時間の活動がはっきりし、見通しがもてる。
☆１単元が１枚にまとめられ、子どもの立場に立っており書きやすい。
☆めあてと評価が一目でわかる。
☆学習のねらいがはっきりしている。
☆ふり返りを言葉でつづり、次時に生かすことができる。

イ　相互評価

教え合いの視点をはっきりさせるために、意図的・計画的な教師の直接的指導を行ったり、発見ボードや ICT（タブレット PC）によって技能のポイントを明確にしたりした。また、１単位時間のめあての確認時に、友だちとチームや個人のめあてを確認し合う活動を設けたり、終末に自分や友だちの「よさ」を出し合ったりする時間を設けた。

(6 年生：友だちのよさを発表する児童)

ウ　教師からの評価

日々変化していく子どもたちの状況を正確に評価していくため、授業準備として、単元計画を作成する際、評価規準を作成し、授業場面、授業前後、単元終了後と、計画的に評価を行った。そのことで、子どもの「わかる・できる」につながるようにした。

◆評価の手順◆

☆授業準備

評価規準の設定

↓

具体的な評価基準の設定
（場面と方法を明らかに）

↓

毎時間の評価

☆授業場面
①行動観察（言葉かけ）
②評価シートへ
（段階・様子を書き留める）

☆授業前後
①学習カード
・観点別
・ふり返り
・記録の伸び　等
②評価シート
（段階・様子を書き記す）

↓

単元を終えての評価

☆単元終了後
①バトンタッチファイルへの記入
↑

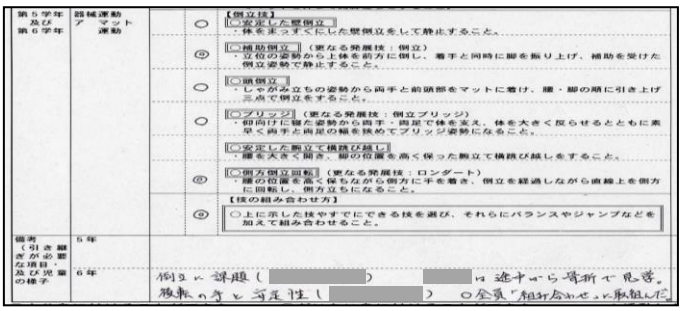
単元終了後、技能等の習得状況を記入する引き継ぎ簿である。教師が昨年度の学習内容や児童の実態を把握し、授業の準備に役立てることができる。

直接的指導のポイント			（技：①）両手バーでの着手と同時に足を振り上げ、背中をそらし、腕・肩・脚が一直線になるようにして倒立することができる。	（技：②）両手バーで着手し、腰を大きく開き、膝を伸ばし、後頭部を着けて回転し、しゃがみ立ちになることができる。	（技：③）しゃがみ立ちからお尻からマットに着けて回り、足を大きく開き両手でマットを押して開脚立ちすることができる。
評価計画	態度	②	①		
	思・判			①	
	技能		①	②	③
評価基準		関心・意欲・態度		思考・判断	
		①進んで運動に取り組み、約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。②器械・器具の安全に気を配ったり、準備や片付けで自分の役割を果たそうとしたりしている。（行動観察・発言）		①課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選んでいる。②技をつなぐ方法を知り、自分の力に合った技を組み合わせている。（行動観察・学習カード・発言）	①両手バーでの着手と同時に②両手バーで着手し、腰を大③しゃがみ立ちからお尻から④手手足足の順で、振り上げ足

＜教師の言葉かけ＞ ⟶ 授業レベルでの評価の最小単位

○指示ではなく、評価を！	○正の評価を多く！（よさを認める）
○その場で！	○具体的に！（ポイントを絞って）
○動きを入れて！	○苦手な子に多く！

【教師用評価シート】

		安定した前転	大きな前転	跳び前転	倒立前転		安定した後転	開脚後転	伸膝後転	
1		○	○	○	○		○	○	△→○	
2		○	○	○	△→○		○	△→○	△→○	
3		○	○	△→○	△→○		○	△→○	△→○	
4		○	△→○	△→○	△→○		△→○	△→○	△	
5		○	○	○	△	例）はぼ（発見）評価	△→○	△→○	△	
6		○	○	○	○		○	○	△→○	

【バトンタッチファイル】